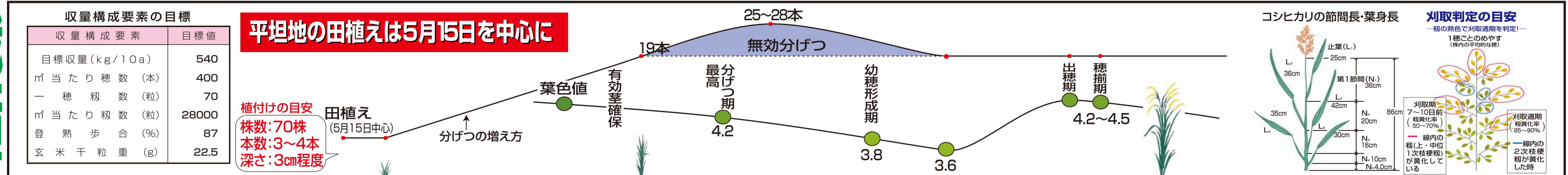


今年度の重点対策 ①珪酸質資材、堆肥の継続施用 ②5月15日を中心とした田植え ③出穂後20日間の湛水管理 ④カメムシ防除の徹底 ⑤栽培記録・GAPの確実な実践

栽培基準を守った生産をしよう



生育期	育苗期	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期	収穫																		
水管理	やや深水	浅水管理	溝掘り	中干し	間断かん水	飽水管理	湛水管理	間断かん水	落水は急がない																	
月日	4月26日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	6月5日	6月10日	6月15日	6月20日	6月25日	7月5日	7月10日	7月15日	7月20日	7月25日	8月5日	8月10日	8月15日	8月20日	8月25日	9月5日	9月10日	9月15日	9月20日	10月
管理のポイント	珪酸質資材の施用と深耕	田面は均平にする 代かきは練りすぎない 土壌に応じた適正な施肥 播種は26日を中心に 芽出し籾250g 一箱当たり、乾籾120g	田植え(15日を中心に) 苗箱施肥の実施	活着後は3cm程度の浅水管理 やや深水で保温	田植え(15日を中心に) 早めの溝掘り (6月上旬までに完了)	中干し後は間断かん水を徹底 畦畔、農道等の草刈りの徹底	幼穂長1.5cm 第4節間 第5節間 第1回目穂肥時	幼穂形成期から飽水管理	一回目の穂肥は幼穂長、葉色に応じて慎重に (出穂5日前から)	一回目は一回目の一週間後にしっかりと 二回目は一回目の一週間後にしっかりと 一発肥料田でも葉色が淡ければ追加穂肥	基本防除二回目(傾穂期) (10日以上あけない事) 防除は7日間隔とし 基本防除一回目(穂揃期)	穂揃期の葉色を4.2~4.5に誘導	出穂後20日間は十分な湛水状態を保つ	フェーン時には事前にかん水	刈取5~7日前までの間断かん水 (早めの落水はしない)	刈遅れによる胴割米の発生防止 籾黄化率85~90%を目安に適期刈取の実施	1.9mmのふるい目で丁寧を選別する 目標仕上げ玄米水分14.5~15.0%	雑草・カメムシ対策(畦畔こぼえ等) 秋起こし 堆肥の施用 珪酸質資材の施用 土づくり								

病害虫防除	種子消毒	育苗時のカビ予防	苗箱施肥	1回目	2回目	傾穂期	随時
<ul style="list-style-type: none"> モミガードC水剤 水20ℓに100g使用する 24時間消毒で1回のみ使用可 最初に種籾をよくゆする 消毒後は水洗いしない 	<ul style="list-style-type: none"> 種籾10kg当たり ナエファインフロアブル 播種時処理の場合 1,000倍液で1箱500mℓかん注 (水100ℓに1本100mℓで苗箱200枚分) 	<ul style="list-style-type: none"> イネミズソウムシ イネドロオウムシ イナゴ類 ニカメイチュウ 白葉枯病 いもち病 紋枯病 	<ul style="list-style-type: none"> イネミズソウムシ イネドロオウムシ イナゴ類 ニカメイチュウ 白葉枯病 いもち病 紋枯病 	<ul style="list-style-type: none"> いもち病・稲こじ病・変色米 ノンプラス粉剤DL アミスターエイト (紋枯病も登録あり) 紋枯病 モンカットファイン粉剤20DL バシタックゾル 	<ul style="list-style-type: none"> いもち病・カメムシ類・ウンカ類 ビームスタークル 粉剤5DL ・10aに4kg ビームエイトスタークル ゾル (1,000倍液) ・10aに100~150ℓ散布 	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類・ウンカ類 キラップ 粉剤DL ・10aに4kg キラップフロアブル (1,000倍液) ・10aに100~150ℓ散布 	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類・ウンカ類 スタークル粉剤DL スタークル液剤10 トレボン粉剤DL トレボン乳剤

土壌に応じた適正な施肥

◆コシヒカリ肥料設計の目安(kg/10a)◆

土壌区分	一発肥料 (コートコシカ)	分施肥系(基肥206・追肥3号)			
		基肥	穂肥①	穂肥②	
沖積	砂壤土	32~36	32~36	10	13
	壤土	27~33	25~30	10	12
	埴壤土	23~27	20~25	10	10
洪積	赤土	27~30	25~30	10	10
	黒ボク	32~36	32~36	10	12

* 基肥量は地力や堆肥施用量に応じて加減しましょう。
* 田植時に基肥施用量の確認をしましょう。
* 一発肥料は安易に増やさず葉色をみて追加穂肥で対応する。

詳細な施肥設計については
各地区営農経済センターへお問い合わせ下さい。

除草剤は適期に散布 (ラベルを確認して正しく使用する事)

田植	田植後
0	+1
+1	+3
+3	+5
+5	+10
+10	+15
+15	+20
+20	+30

(10aあたり使用量)

初期剤 + 中期剤: ビラクロン粒剤 1kg (移植直後~ノビエ1.5葉期、但し移植後30日まで)

田植同時兼用剤: ベッカク粒剤 1kg (移植後0~5日)

初中期一発処理剤: ゼータタイガー粒剤・ジャンボ (移植後5~12日)

後期剤: ヒエ、広葉雑草が残った場合 (Weedコア粒剤, ロイヤント乳剤, トドメバスマF液剤)
ヒエ、広葉雑草が残った場合 (バサグラン粒剤)
クサネム・イボクサが残った場合 (ノミニー液剤)
ヒエが残った場合 (トドメMF粒剤・乳剤, ヒエクリーン豆つぶ)

レプラス粒剤・ジャンボ (移植後14日~ノビエ4葉期、収穫60日前まで)
注1 ブイゴールSM粒剤 (移植後15日~ノビエ3.5葉期、収穫60日前まで)
注1 15℃以下または30℃以上の場合は使用を避ける

田植同時兼用剤は雑草の状況を見て中期剤や後期剤を散布!

※留意点: やや深めに水を張って、散布後7日間は落水やかけ流しをしない

品質・食味に差がでる土づくり

「土づくり」の3ポイント

- 珪酸質資材100kgを目標に継続的な施用
- 稲わら、堆肥・籾ガラ等の有機物の施用
- 15cm以上の深耕の実施

◆土づくり資材の10aあたり標準施用量◆

資材名	珪酸質資材					
	スーパーゲイサン+	フミンエース	シリカロマン	有機加力シリカロマン	鶏糞良好	グリーンウエイブDX
施用量	90kg	100kg	100kg	100kg	100kg	90kg
特徴	pHの矯正 ケイ酸の補給	pHの矯正 腐植質の補給	pHの矯正 リン等の補給	シリカロマン 有機加力ケイ酸	pHの矯正 リン等の補給	pHの矯正 腐植質の補給

※上記の中から必要な資材を選んで使用してください

栽培記録

区分	珪酸質資材、肥料名	施用月日	施用量	本田管理 (作業開始日)	区分	農薬名	散布月日	散布量	区分	時期	農薬名	作業日	散布量					
														月	日	kg/10a	月	日
土づくり	基肥	月	日	kg/10a	除草	耕起	月	日	田植え	刈取日	育種期	種子消毒	月	日				
	追肥	月	日	kg/10a		中干し	月	日				落水	月	日	苗箱施肥	月	日	50 g/箱
	穂肥①	月	日	kg/10a		農薬名	散布月日	散布量				病害虫防除	本田	月	日	月	日	/10a
	穂肥②	月	日	kg/10a		月	日	/10a				随時	月	日	月	日	/10a	

肥料農薬名は農協の推奨品目です。農薬等は、記載されている使用基準を守って使用しましょう。